

令和6年度

青森県中学校教育課程研究集会 【特別支援教育部会】

田子町立田子中学校
教諭 花田 美衣



中学校教育課程研究集会の研究主題

【特別支援教育にかかわる主題】

発達障がいを含む障がいなどを有する特別な配慮を必要とする生徒が、その持てる力を最大限に發揮して自立や社会参加することを目指すための、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の工夫・改善



3

はじめに

田子町立田子中学校

- ・教職員 19名
- ・生徒 82名
- ・学級数 5学級（特別支援学級含む）



1

発表の流れ

1. 実践の概要
2. 授業の様子
3. 成果と課題



4

I. 実践の概要

音楽

個別の指導計画

令和5年度 個別の指導計画（白井君・情報探査学級）

① 情報収集

②-1 情報の整理

②-2 情報の整理

②-3 情報の整理

③ 課題を抽出

④ 中心的な課題を導く

⑤ 目標の設定

⑥ 必要な項目の選定

⑦ 項目と項目を関連付ける

⑧ 具体的な指導内容の設定

⑨ 指導の結果

音楽

個別の指導計画

令和5年度 個別の指導計画（白井君・情報探査学級）

②-3 整理した情報（②）を3年後の姿の観点から整理する段階

③ ①もとに②-1、②-2、②-3で整理した情報をもとに段階を進める段階

④ 整理した情報（②）を3年後の姿の観点から整理する段階

⑤ ①もとに②-1、②-2、②-3で整理した情報をもとに段階を進める段階

⑥ 整理した情報（②）を3年後の姿の観点から整理する段階

⑦ 整理した情報（②）を3年後の姿の観点から整理する段階

⑧ 整理した情報（②）を3年後の姿の観点から整理する段階

⑨ 整理した情報（②）を3年後の姿の観点から整理する段階

音楽

個別の指導計画

令和5年度 個別の指導計画（白井君・情報探査学級）

②-3 整理した情報（②）を3年後の姿の観点から整理する段階

③ ①もとに②-1、②-2、②-3で整理した情報をもとに段階を進める段階

④ 整理した情報（②）を3年後の姿の観点から整理する段階

⑤ ①もとに②-1、②-2、②-3で整理した情報をもとに段階を進める段階

⑥ 整理した情報（②）を3年後の姿の観点から整理する段階

⑦ 整理した情報（②）を3年後の姿の観点から整理する段階

⑧ 整理した情報（②）を3年後の姿の観点から整理する段階

⑨ 整理した情報（②）を3年後の姿の観点から整理する段階

音楽

I. 実践の概要

生徒の実態（本実践に関して）

- 協力学級で休み時間過ごすときや体育祭の練習では、同級生・先輩関係なく女子生徒との距離が近くなることがある。
- 集団生活に適応する必要性を理解しており、トラブルなく、安心して学校生活を送ることができるようになりたいという気持ちをもっている。
- 苦手なところは「視覚情報を正確に把握し作業する力」、得意なところは「聴覚的な記憶力」である。

9

I. 実践の概要

- 距離感が近い。
- トラブルなく、安心して学校生活を送ることができるようになりたい。
- トラブルの未然防止

10

I. 実践の概要

自立活動 6区分27項目との関わり

3 人間関係の形成
(2) 他者の意図や感情の理解に関するこ。

4 環境の把握
(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関するこ。
(4) 感覚を統合的に活用した周囲の状況についての把握状況に応じた行動に関するこ。

11

I. 実践の概要

自立活動 6区分27項目との関わり

- 本単元において特に中心としたもの
→「4 環境の把握」
- 人の適切な距離感を学ぶ。

12

Ⅰ. 実践の概要

単元の指導について

- 人にはそれぞれ『パーソナルスペース』があることを学び、人間関係の形成が円滑に行われるよう支援する。
- 自己との関係の近さに応じて物理的な距離が変わることを、場面絵や図で示す。
- 聴覚的な記憶力を得意としているため、場面絵を提示するときには、その場面を表す内容を言葉で補足説明する。
- 単元の最後の時間には、今後の生活で実践できるようにロールプレイを取り入れる。

13

Ⅰ. 実践の概要

単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

パーソナルスペースを意識して学校生活を送ることができる。

(2) 単元の評価規準

パーソナルスペースを意識して学校生活を送っている。

14

Ⅰ. 実践の概要

指導と評価の計画

時間	目標・学習活動	評価規準(評価方法)
1	パーソナルスペースとは何か理解する。 ・列に並ぶ時の状況から、知らない人との距離はどのくらいが適切なのか考える。	相手の態度や表情を見ることで、パーソナルスペースの存在に気づくことができる。(ワークシートへの記入及び発表内容)
2 (本時)	相手との関係によってパーソナルスペースが変化することを理解する。 ・相手との関係によって、パーソナルスペースの距離は変わるものであることを、場面絵や人物イラストを用いて考える。	相手との関係によってパーソナルスペースが変化することを説明することができる。(ワークシートへの記入及び発表内容)

15

Ⅰ. 実践の概要

指導と評価の計画

時間	目標・学習活動	評価規準(評価方法)
3	同じ相手でも、状況に応じてパーソナルスペースが変化することを理解する。 ・同じ相手でも気分や体調によって変わったり、場面によって変わったりすることを考える。	同じ相手でも、状況に応じてパーソナルスペースが変化することを説明することができる。(ワークシートへの記入及び発表内容)
4	これまでの学習を振り返り、パーソナルスペースの適切な距離を具体的に表現する。 ・これまでの学習や、ロールプレイを通して、生活においてパーソナルスペースを意識することができていたかを考える。	腕の長さなど、具体的な長さでパーソナルスペースを表すことができる。(ワークシートへの記入及び発表内容)

16

I. 実践の概要

授業の構造

- 生徒はADHDの傾向が見られ、長時間集中した状態を保つことが難しい。
→ 1時間を3つの活動に分けて帯活動

- 機能性構音障害に関する時間
- その時間の主とした題材を扱う時間
- 運動協調性障害に関する時間

17

2. 授業の様子

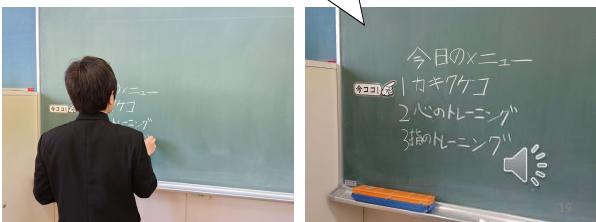
18

2. 授業の様子

本時の展開

- 今日の授業の流れの確認
- 発声練習
 - (1) かきくけこ
 - (2) 特殊音節(拗音)

授業の流れを確認する



19

2. 授業の様子

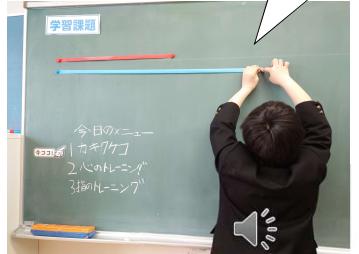
本時の展開

- パーソナルスペースを測り、比較する。

(1) 学級担任
(2) 部活動顧問

<発問>
「どうして距離が違うのかな?」
↓
「花田先生の方が、一緒にいる時間が長い。」

赤…学級担任
青…部活動顧問



20

2. 授業の様子

本時の展開

- 学習課題を確認する。

パーソナルスペースはどれくらいの距離が適切なのだろうか。

21

2. 授業の様子

本時の展開

- いくつかの絵を見て、パーソナルスペースについて考える。

(1) 2枚の絵カードを見比べて、登場人物の反応が違っている理由を考える。

I. 登場人物の女性の反応が違うのはなぜでしょう？

話しかけてきた男の年いいや長かちかうから

23

2. 授業の様子

本時の展開

- いくつかの絵を見て、パーソナルスペースについて考える。

(1) 2枚の絵カードを見比べて、登場人物の反応が違っている理由を考える。

22

2. 授業の様子

本時の展開

- いくつかの絵を見て、パーソナルスペースについて考える。

(2) ワークシートの絵を見て、パーソナルスペースが守られているかを考える。

<ul style="list-style-type: none"> ・同性の友達同士 ・小学校低学年の男女 ・親戚のお姉さんと幼児 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年の男女 ・中学生の男女 ・親戚のお姉さんと中学生男子
---	---

活動中の支援

- ・間違えてもいいから自分の考えを書くこと(声かけ)
- ・人物の関係性について、言葉による補足

24

2. 授業の様子

本時の展開

- ・感想発表
- ・まとめ

3. 活動を通して気づいたことや感想を書きましょう

相手の身長や年齢によってパーソナル スペースが変わってくる。

まとめ
パーソナルスペースは、一定ではない。
相手の身長や年齢によって変化する

25

25

26

26

本時の展開

- ・振り返り
展開の初めに使った絵カードを再度提示

<発問>

「あなただったら、この女性はどちらの反応をすると
思う？」



「びっくりして『うわっ！』と言う。」

- ・指の運動



26

3. 成果と課題

成果

- ・生徒の実態に基づき、教材を図で提示するだけ
でなく、言葉で補足することで絵カードの場面を
理解させることができた。
- ・紙テープを使ってパーソナルスペースを可視化
したことで、客観的な視点で理解させることができた。



28

3. 成果と課題



27

3. 成果と課題

課題

- ・ 視覚情報の活用がうまくできないためパーソナルスペースがわからないのか、それとも、わかっていてあえて近づくのか、生徒の実態把握をよりじっくりを行い、指導内容等を改善していく。
- ・ 実際の学校生活の中で、パーソナルスペースを考えて行動できるようになるには、継続した指導が必要である。

 29

おわりに



令和6年度 青森県中学校教育課程研究集会

特別支援教育にかかわる主題

発達障がいを含む障がいなどを有する特別な配慮を必要とする生徒が、その持てる力を最大限に發揮して自立や社会参加することを目指すための、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の工夫・改善

【特別支援教育部会 指導助言】

三八教育事務所
指導主事 橘 宏卓



これからお話すること

- 1 自立活動の指導計画について
- 2 実践発表における課題の解決に向けて



I 自立活動の指導計画について

I 自立活動の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等の的確な把握に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって、指導目標及び指導内容を設定し、個別の指導計画を作成するものとする。その際、第2に示す内容の中からそれぞれに必要とする項目を選定し、それらを相互に関連付け、具体的に指導内容を設定するものとする。

(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動 第3 個別の指導計画の作成と内容の取扱い)

・ 自立活動の内容:六つの区分27項目

- 「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」
- 「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」

「どの内容」を「どの程度」、「どの段階で」指導するのかが不明確

I 自立活動の指導計画について

<具体的な指導内容の設定までの手順>

- 1 個々の児童生徒の実態を的確に把握する。
- 2 実態把握に基づいて得られた指導すべき課題や課題相互の関連を整理する。
- 3 個々の実態に即した指導目標を設定する。
- 4 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章第2の内容から、個々の児童生徒の指導目標を達成させるために必要な項目を選定する。
- 5 選定した項目を相互に関連付けて具体的な指導内容を設定する。



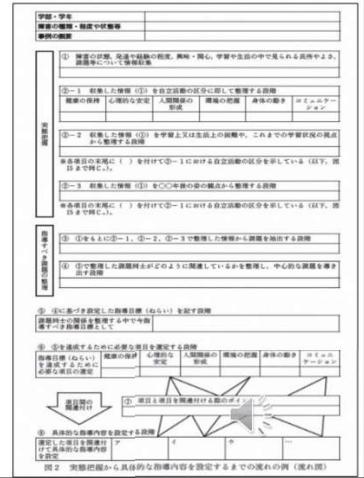
I 自立活動の指導計画について

→ 流れ図

実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例のこと。



(特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編P28～)



I 自立活動の指導計画について

2 個別の指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (I) 個々の児童又は生徒について、障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などの**実態を的確に把握すること**。

(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動 第3 個別の指導計画の作成と内容の取扱い)



I 自立活動の指導計画について

① 健康の状態、免責や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報を収集

○学校や家庭での生活の様子
・特別支援学級での個別の評定（主教諭：自立活動）では、落ち着いて学習に向かうことができる。
・運動や筋力活動で、運動の範囲を広げようとしている。
・運動や筋力活動に責任を持てて行なっている。
・タスクをこなすことで、興味があることについて話したりすることが好きである。がんばりや挑戦等が苦手で、聞き手が喜び取扱いがあること。
・運動が苦手で、バランスや平衡感覚やセンスなどでは動きがワンテンポ遅れたりする。
・交渉学級の授業において、集中できないことが多い。
・友達ともつづりを交換したり、イマジンしたりする。
・うまいことないときに、自分で問題を解決する方法でやるに八つ当たりする。
・自分の意見を出すことを苦手とする。
一歩も前に進むのが苦手で、カッコ立って歩くのが苦手とも言える。
・休み時間や行動の練習の時間、友達や友達との距離感が近いことがある。
・注意が持続しても、ニヤニヤ笑って指で頭に寝かすことがある。
・運動や筋力活動に責任を持てて行なっている。
○問題とされる課題選定
- WIS-C-NV
- S-M社会生活能力検査
- 教研尺度検査
- 教研尺度検査 MET

② 収集した情報（①）を自立活動の区分に即して整理する

健康の保健	心理的な変化	人間関係の形成	運動の把握	身体的動き	コミュニケーション
・うまくいかないことが多い ・特にバランスの良い方向性がある ・自分一人で走るよりも、他の人に手を貸す方が楽である ・運動の中では、集中できないことが多い。	・いつもかわいい ・うまいことない ・カッコ立てる ・運動の範囲を広げようとしている。	・友達の先輩との間で、かかわりを多く持つ ・友達ともつづりを交換したり、イマジンしたりする。	・バランスを取る ・歩き方をimitate ・運動情報を正確に把握し、作業するのを得意とする ・運動の範囲を広げようとしている。	・歩き方をimitate ・歩き方をimitate ・歩き方をimitate ・歩き方をimitate	・ニヤニヤ笑って指で頭に寝かす ・友達から記憶を借りる ・友達が不思議で聞き取りづらい

【内容】・健康状態・対人関係や社会性・身体機能
・基本的な生活習慣・知的発達の程度・生育歴
・感覚や知覚・認知の特徴・教育歴
・コミュニケーションの状態・家庭や地域の環境など

 非常に多様な情報が必要

(実践発表資料P8より)

I 自立活動の指導計画について

(3) 具体的な指導内容を設定する際には、以下の点を考慮すること。

ア 児童又は生徒が、興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わうとともに自己を肯定的に捉えることができるような指導内容を取り上げること。

(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動 第3 個別の指導計画の作成と内容の取扱い)



- ・解決可能な取り組みやすい指導内容に
- ・児童が自分から参加できるような指導内容に
- ・キャリア形成の視点を大切にした指導内容に



I 自立活動の指導計画について

- ・振り返り
展開の初めに使った絵カードを再度提示

<発問>
「あなただったら、この女性はどうしたら反応をするとと思う？」
↓
「びっくりして『うわっ！』と言う。」



(実践発表資料P9より)

2 実践発表における課題の解決に向けて

課題

- ・視覚情報の活用がうまくできないためパーソナルスペースがわからないのか、それとも、わかっていてあって近づくのか、生徒の実態把握をよりじっくり行い指導内容等を改善していく。
- ・実際の学校生活の中で、パーソナルスペースを考えて行動できるようになるには、継続した指導が必要である。



(実践発表資料P12より)

2 実践発表における課題の解決に向けて

(2) 児童又は生徒の実態把握に基づいて得られた指導すべき課題相互の関連を検討すること。その際、これまでの学習状況や将来の可能性を見通しながら、**長期的及び短期的な観点**から指導目標を設定し、それらを達成するために必要な指導内容を段階的に取り上げること。

(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動 第3 個別の指導計画の作成と内容の取扱い)

- 系統的に指導していくためには、指導記録を適切に管理し、指導の累積効果が生かされる工夫が重要



2 実践発表における課題の解決に向けて

7 自立活動の指導の成果が進学先等でも生かされるように、個別の教育支援計画等を活用して関係機関等との連携を図るものとする。

(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動 第3 個別の指導計画の作成と内容の取扱い)



- 「学びの連続性」を重視



2 実践発表における課題の解決に向けて

(4) 児童又は生徒の学習状況や結果を適切に**評価**し、個別の指導計画や**具体的な指導の改善**に生かすよう努めること。

(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動 第3 個別の指導計画の作成と内容の取扱い)



- 指導の結果(評価)に基づく授業改善に日常的に取り組むこと。
- 多面的な判断ができるために、教師の専門性の向上はもちろん、外部の専門家等との連携を図っていく必要があること。



自立活動の目標 (特別支援学校小学部・中学部学習指導要領)

個々の児童又は生徒が**自立**を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の**調和的発達の基盤を培う**。

・「自立」とは

→ 児童生徒がそれぞれの障がいの状態や発達の段階等に応じて、主体的に自己の力を可能な限り發揮し、よりよく生きていこうとすること。

・「調和的発達の基盤を培う」とは

→ 一人一人の発達の遅れや不均衡を改善したり、発達の進んでいる側面を更に伸ばすことによって、遅れている側面の発達を促すようにしたりして、全人的な発達を促すこと。